

インフラメンテナンス新技術・体制等導入推進委員会  
「点群データを活用した施設の管理効率化に資する技術」

第3回 ワーキング

日時：令和2年2月25日（火）10:15～12:15

場所：静岡県庁別館 20階第1会議室 A

次第

1. 開会挨拶（静岡県）（10分）
2. 現場試行状況報告（各者20分×4＝80分）
  - (1) 大阪経済大学・摂南大学・関西大学・（株）日本インシーク・日本工営（株）
  - (2) （株）日立ソリューションズ
  - (3) （株）パスコ
  - (4) 日本電気（株）
3. 現場試行結果報告（静岡県）（20分）
4. 広報について（国土交通省）（5分）
5. 今後のスケジュール（国土交通省）（5分）

以上

インフラメンテナンス新技術・体制等導入推進委員会  
「点群データを活用した施設の管理効率化に資する技術」

第3回 ワーキング

出席者

【主催自治体】

- ・ 静岡県

【コーディネータ】

- ・ 法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科 准教授  
今井 龍一

- ・ 国土技術政策総合研究所 道路交通研究部  
高度道路交通システム研究室 室長

関谷 浩孝

【オブザーバ】

- ・ 中部地方整備局
- ・ 神奈川県川崎市

【企業等】

- ・ 大阪経済大学、摂南大学、関西大学、(株)日本インシーク、日本工営(株)
- ・ (株)日立ソリューションズ
- ・ (株)パスコ
- ・ 日本電気(株)

インフラメンテナンス新技術・体制等導入推進委員会  
「点群データを活用した施設の管理効率化に資する技術」

第3回 ワーキング

配布資料一覧

- 資料1 現場試行状況報告  
大阪経済大学・摂南大学・関西大学・(株)日本インシーク・日本工営(株)
- 資料2 現場試行状況報告 (株)日立ソリューションズ
- 資料3 現場試行状況報告 (株)パスコ
- 資料4 現場試行状況報告 日本電気(株)
- 資料5 現場試行結果報告(静岡県)
- 資料6 広報・今後のスケジュールについて(国土交通省)

# 現場試行の結果報告



「工事中」がみらいをつくる！どぼくってオモシロイ！  
静岡県交通基盤部



## 現場試行の評価

視点	項目	評価
適用性	職員が3次元データを閲覧する環境	利活用環境を提供いただいた
効果	3次元データからの特定施設・変状等の把握	提案いただいた環境にて一定の活用が可能であることが確認できた
今後の課題	実装の可能性	現状の実務の業務フローを完全に置き換える状況には至っていない

## 今後の方向性

- 適用性、効果について今後の活用の可能性が示されたことから、この結果を踏まえて、企業等の協力が得られる場合には引き続き現場実装への検討を実施する。
- 試行において業界等への協力も追加で実施したが、市町等においてもニーズが見込めることから、引き続きの検討においては、他の関係者も含めて実施していきたい。

## 現場試行の評価

視点	項目	評価
適用性	3次元データからの特定施設・変状等の把握	提案いただいた環境にて一定の活用が可能であることが確認できた
効果		
今後の課題	実装の可能性	データの不足や技術の精度向上等の対応の検討が必要となる

## 今後の方向性

- 適用性、効果について今後の活用の可能性が示されたことから、この結果を踏まえて、企業等の協力が得られる場合には引き続き現場実装への検討を実施する。
- 試行において、民間企業等との連携も重要となることが明らかとなったことから、引き続きの検討においては、他の関係者も含めて実施していきたい。

## 現場試行の評価

視点	項目	評価
適用性	3次元データから簡易かつ自動的な氾濫危険箇所の抽出	一定の活用の可能であることが確認できた
効果		
今後の課題	実装の可能性	手法の構築には更なる検討が必要となる

## 今後の方向性

- 適用性、効果について一定の可能性が示されたことが、検討課題が多くあることから、本試行については、この結果をもって検証を終了する。
- 河川管理への3次元データの活用については、次年度以降、個別の業務等にて実施していく予定であることから、本試行の結果を踏まえて、引き続き、可能性について検討を継続する。

## 現場試行の評価

視点	項目	評価
適用性	点群データとSARデータの重ね合わせによる変状把握	点群データから変状把握はできない
効果		点群データを活用しSARデータが可視化された
今後の課題	実装の可能性	SARデータの活用としては有効であるが、点群データの活用としての効果は小さい

## 今後の方向性

- SARデータを用いた広域的な変状等の把握は、県のニーズとは異なるため、本試行については、この結果をもって検証を終了する。
- 一定の成果は得られたことから、提案企業においては、本検証の内容も含めて、SARの活用について、普及展開等を検討いただきたい。



# ワーキングに関して

- 試行の時間が限られており、十分な検証を行うことができなかった。今回のような提案技術をそのまま実装できない場合においては、ある程度の期間を確保することとで、さらに有効を行うことができると考えられる。
- 現場実装には、多くの検討や検証が必要となることから、仕様を規定して企業と契約等を行うのではなく、共同研究や協定のほか自治体と企業が新技術導入を積極的に検討できるスキームの一般化が必要と考えられる。

# 広報・今後のスケジュールについて

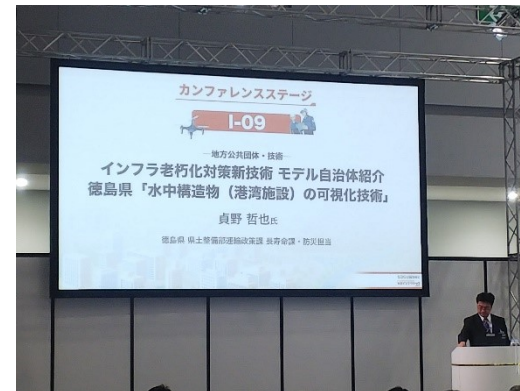
---

公共事業企画調整課

本WGにおける現場試行の取組を、広く業界関係者に周知し、横断的に展開することを目的に、広報活動を実施。来年度も引き続き実施していく予定。

## 1. 実施状況

- ・国交省HPでの会議資料(各社の技術提案資料含む)の掲載
- ・「建設技術フェアin中部(10/16)」における講演(国交省)
- ・「インフラテック展 2019(12/4～6)」における講演(静岡県、徳島県)

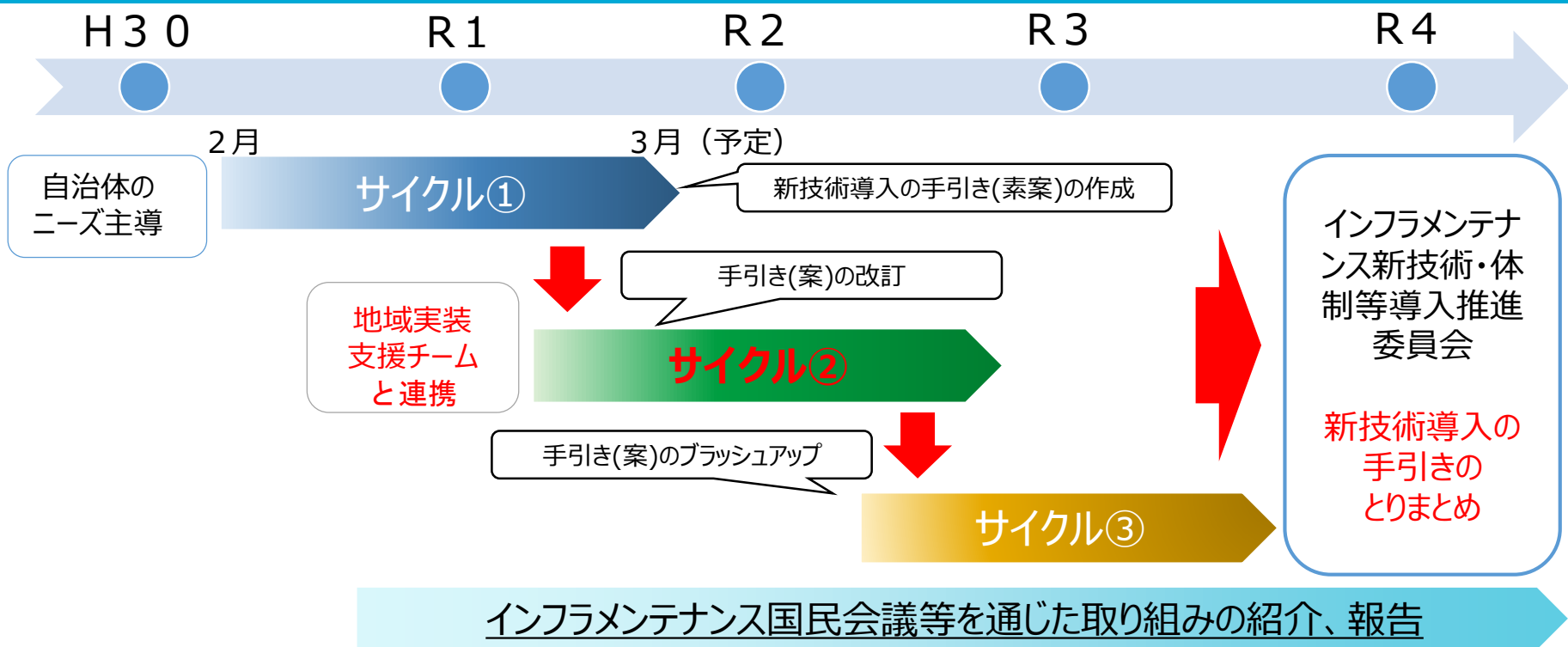


インフラテック展 2019 講演状況

## 2. 今後の広報活動予定(案)

- ・「インフラテック展 2020(11/26～27)」への参加
- ・雑誌への投稿
- ・インフラメンテナンス国民会議のセミナーへの参加,等

# 今後のスケジュール



## サイクル①

- ・静岡県と徳島県をモデル自治体として実施
- ・インフラメンテナンス新技術・体制等導入推進委員会(第3回)に報告(3月19日)
  - ←現場試行報告、第2サイクルの進め方、新技術導入の手引き素案作成
  - ←WG委員にご参加いただきたい

## サイクル②

- ・3モデル自治体の公募(3月末～5月上旬)
- ・モデル自治体の決定